

経営改善目標の達成に向けた取組状況

1 法人の概要（令和2年7月1日現在）

法人名	(福)神奈川県総合リハビリテーション事業団					
設立年月日	昭和48年2月2日	代表者名	理事長 富田 輝司			
所在地	神奈川県厚木市七沢516		電話番号	046-249-2240		
基本財産等	27,000,000	円	県出資額	10,000,000	円	県出資率 37.0 %

2 法人運営における現状の課題

(1) 人材の確保・育成 ①民間の病院や福祉施設では対応困難な重度・重複障害者への医療・福祉サービスの提供、②市町村や地域のリハビリテーション活動支援等、リハセンターがこれまで培ったノウハウを継承するための優秀な人材確保と職員の資質向上。
(2) 人材の定着 ①令和2年3月末の現給保障期間終了に伴う給与の減少による離職防止、②働き方改革への対応等、兼業の緩和や休暇を取得しやすい環境作りに努めるとともに、研修や福利厚生の充実を図る等、人材定着のための魅力ある職場づくり。
(3) 新型コロナウイルスとの共存 新型コロナウイルスの感染防止対策に取り組む一方、県民から求められるサービスを安定的に提供する。また、新型コロナウイルス感染拡大により生じた収入減（病院外来診療におけるリハビリテーション訓練や福祉施設における短期入所等の一時休止等）に関する基本協定書に基づく神奈川県との協議。
(4) 安全管理対策の強化 リハセンター再整備が完了し病院及び福祉施設の動線が確定したことから、より一層、安全管理体制を確立・徹底する。

3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
1	七沢学園(児童) 家庭復帰率	%	80.0	76.9	66.6	60.0		C
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	令和元年度は高校3年生が3名おり、進路指導の結果、グループホーム利用についてももう少し準備期間が必要との判断で全員が施設入所支援を活用することとなったため、目標を達成することができなかった。			養護学校卒業後の生活の場については、個人毎に地域移行に向けた適当な支援方法に関して、早い段階から学校進路担当と協議・調整していく。				
	備考							
令和元年度退所者10名中、家庭復帰6名、施設移行4名(措置3名・契約1名)								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
2	七沢学園(児童) 強度行動障害児受入	人	0.2 (2.0)	1.0 (2.0)	0.0 (2.0)	0.4 (2.0)	(2.0)	C
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	児童東ユニット (中高生対象) に行動障害を受け入れる個室があるものの、軽度発達障害児の中高校生の利用ニーズが高く、措置の受け入れ数も多いなか、当該ユニットで強度行動障害児を受け入れた場合の安全も配慮し、受け入れを控えざるを得なかった。そのため、小学生を中心とした西ユニットの個室での受け入れの見極めを始めたところであり、目標を達成できなかった。			障害程度が重い重度加算算定対象者を2名ほど受け入れている。また、昨年11月の県強度行動障害対策会議にて認定を受けた児童については支援を継続する中、さらに受け入れが可能か、短期利用等で対象となる児童の特性や集団適応を見極め、検討していく。				
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
3	七沢学園(児童) 集中療育	人	12.0 (7.5)	7.0 (7.5)	6.0 (8.0)	7.0 (8.0)	(8.5)	B
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	児童相談所や短期利用者の家族とも連絡を密にとり計画を立て実施している。令和元年度は毎年集中療育を夏休みに実施していた家族に対し、毎月短期入所を実施する方針変更があり、目標を達成することができなかった。			児童相談所、及び短期利用者に対して集中療育という制度の紹介を強化して利用者の確保に努める。				
	備考							
利用実績 4/25～7/31、7/22～8/30、9/2～11/29、9/4～11/28、12/2～1/7、12/4～1/6、2/4～3/31								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
4	七沢学園(成人) 家庭復帰率	%	50.0 (60.0)	100.0 (60.0)	100.0 (60.5)	72.7 (60.5)	(61.0)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	昨年度は全員グループホームや家庭に移行できたが、今年度は、グループホームや家庭引取りが難しい利用者がいて施設入所支援、精神科病院への入院を移行先として選ばざるを得ない状況が生じた。しかし、目標は達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
5	七沢学園(成人) 医療重度者受入	人	5.0 (3.0)	5.0 (3.0)	5.0 (3.0)	5.0 (3.0)	(3.0)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	医療との連携を図り、安定した支援を継続することができ、今年度も目標を達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
6	七沢学園(成人) 強度行動障害者受入	人	5.0 (6.0)	5.0 (6.0)	5.0 (6.0)	5.0 (6.0)	(6.0)	C
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	<p>強度行動障害者は、入所定員15名の生活介護の枠組の中で受け入れているが、現状、定員数の上限に達しており、退所者が出ないと新たに受け入れることができない。</p> <p>このような状況の中で、2名の方について地域移行に向けた体験入所等の取組を進めたが、障害の程度が重いことが原因で地域移行が実現しなかったため、新たな強度行動障害者の受け入れもできなかった。</p>			<p>長期入所者の中には、強度行動障害の認定を受けていないが、同程度の特性を有する利用者が多くいるため、今後、対象者については神奈川県強度行動障害連絡調整会議にて認定を申請していく。あわせて、引き続き短期入所において行動障害がある利用者を受け入れていく。</p>				
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
7	七沢学園(児童・成人) 満足度調査評点	点	3.2 (3.0)	3.3 (3.0)	3.6 (3.1)	3.4 (3.1)	(3.1)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	<p>学園では虐待防止改善計画を行い6年目を迎える。内部の努力、第三者委員を含めた苦情解決の充実を心掛けている。満足度調査はその評価を反映していると思われるため、今後とも努力を積み重ね、目標を達成していく。</p>							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
8	七沢療育園 超・準超重症児受入	人	17.4 (10.0)	16.1 (10.0)	14.1 (10.0)	13.2 (10.0)	(10.0)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	<p>令和2年2月より新型コロナ感染予防対策としてショートステイ利用者の受入れ制限を実施したため、昨年度比較では超・準超重症児者の受入数も減少したが、目標は達成することができた。</p>							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
9	七沢療育園 満足度調査評点	点	3.7 (3.4)	3.9 (3.4)	3.9 (3.5)	3.9 (3.5)	(3.5)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)			
	利用者の生活や日中活動などの様子を家族に写真や手紙等で報告するなどの取組が増え、家族が利用者の園内生活の情報を得やすくなっていることが高い評価の背景にあると思われる。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
10	七沢自立支援ホーム 家庭復帰率	%	84.0 (90.0)	87.9 (90.0)	93.3 (90.5)	91.7 (90.5)	(91.0)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)			
	生活担当を中心にスタッフ一丸となって地域移行支援を行った結果、今年度も目標を達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
11	七沢自立支援ホーム 満足度調査評点	点	3.5 (2.8)	3.5 (2.9)	3.5 (3.0)	3.7 (3.0)	(3.0)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)			
	接遇や呼称を常に意識することを心掛け、また利用者からの要望に対する取組が評価され、目標を達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
12	神奈川リハ病院 家庭復帰率	%	89.4 (80.0)	86.6 (80.0)	88.0 (80.5)	88.2 (80.5)	(81.0)	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)			
	患者及び家族のニーズに対し、各専門分野の高い技術による的確な医療を提供するとともに、きめ細やかな地域生活に向けた準備を行うことで家庭復帰率を達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
13	神奈川リハ病院 満足度調査評点	点	3.5 (3.3)	3.4 (3.3)	3.5 (3.4)	3.6 (3.4)	(3.4)	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	医師や看護師をはじめ各職種で高い評価を得て、目標値を達成することができた。日頃の接遇や技術の向上への取組が評価されたものと考えている。今後もこの評価を維持・向上できるように努める。							
	備考							

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
1	七沢学園(児童) 利用率	%	90.6 (98.0)	94.1 (98.0)	91.7 (98.0)	93.5 (98.0)	(98.0)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	4月の新規利用者の選考にあたっては児童相談所等との調整のもとに実施している。長期利用である場合、年齢や性別に応じて各ユニットの集団特性との適応が受入れの判断となるため、長期入所に関しては、集中療育などの評価を行いながら対応をしている。また、一時保護や短期利用のニーズも高く空床を有効活用しているが、目標を達成することはできなかった。				非常に高い目標利用率であるが、達成に向けて努力をしている。あと1名程度長期入所が可能であれば受け入れる方針で運営をしていく。			
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
2	七沢学園(成人) 利用率	%	98.5 (93.1)	96.8 (93.1)	96.3 (93.1)	90.0 (93.1)	(93.1)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	当施設は、生活介護及び生活訓練事業を実施している。生活訓練事業対象の利用者が12月以降4名ほどグループホームに移行するため退所し、年度途中に新たな利用者を確保できなかったため、目標を達成することはできなかった。				年度途中で退所後、入所、通所できる利用者の確保に努めていく。			
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
3	七沢療育園 利用率	%	93.0 (97.0)	91.7 (97.0)	91.8 (97.0)	92.0 (97.0)	(97.0)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	<p>県独自の特例的対応である中期入所（レスパイト目的の有期限の療養介護と医療型障害児入所）が令和元年12月末で終了となり、中期入所者は、入所枠ではなく短期入所枠でカウントされるようになったため、目標を達成できなかった。</p>			<p>県独自の特例的対応である中期入所の入所枠での取扱いが終了したため、令和元年1月以降の利用率はほぼ長期利用者（34名…85%）のみである。制度変更に伴い、長期入所者の確保に努めるが、当園は地域生活者のレスパイト目的で短期入所の要望が高い点に特徴があり、短期利用者を含めた利用率の目標設定が望まれる。</p>				
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
4	七沢自立支援ホーム 利用率	%	89.5 (94.1)	87.0 (94.1)	85.1 (94.1)	84.9 (94.1)	(94.1)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	<p>肢体部門については、県内の回復期病院からの利用と、養護学校からの利用が前年度に比べて下回ってしまった。視覚部門については、ロービジョンに理解のある地域の眼科と連携した体験会を強化したことで、後半から利用が増えてきた。新型コロナウイルスの拡大にともない、肢体・視覚部門とも、年度末にかけて利用を控える方が出てきたことから、目標達成はできなかった。</p>			<p>肢体部門においては、今後も近隣の回復期病院との連携を維持・向上させていく。また視覚部門においては、地域体験会の他、昨年度から県内に開設したスマートサイト（視覚障害を持つ方が相談できる窓口）を通じて、神奈川リハ病院眼科と連携しながら利用促進を図る。</p>				
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
5	神奈川リハビリテーション病院 入院患者利用率	%	80.9 (90.0)	90.7 (90.0)	89.9 (90.0)	83.6 (90.0)	(90.0)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	<p>県内の医療機関では、（国民の4人に1人が75歳以上になるとの推計結果に基づく）2025年問題に向けて、回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟が増えており、特に同じ地区のリハビリ病院が本格的に稼働するなど医療環境が変化し、回復期の紹介患者が減少した。地域の回復期の病院も充足率が低下している状況である。また、1月中旬から新型コロナウイルス患者が発生したが、県の対策本部の依頼もあり患者発生に備えベッドを空けるなど、リスクに備え病床利用率を抑えざるを得なかった。</p>			<p>患者の入院受入窓口である地域連携室を中心に、急性期病院との連携を密に行なっていく。一方では、新型コロナウイルスによる院内クラスターの発生リスクからフル稼働はできない。また、新型コロナウイルスの感染を危惧する患者心理により、病院の利用者数は減少している。こうしたことから、利用率の回復のためには感染の収束が待たれる。</p>				
	備考							

4 取組実績等についての総括（法人）

令和元年度の経営改善目標の達成に向けた取組実績等の元年度自己評価は目標値に対して達成率100%以上をA、85%～100%未満をB、85%未満をCとした。

令和元年度は、働き方改革が始動した年でもあり、病院全体として職員の就労環境の改善を試みた。特に医師については、働き方改革が始まる令和6年度まで5年間の猶予があるものの、各個人による負担の大きさが病院経営の大きなリスクとなっており、この改善へスタートした。具体的には、特定の診療科に過度な負担がかからないようにした。結果としては偏りの改善には十分な成果は上がっていないものの、残りの期間で改善を目指していきたい。

電子カルテシステムの導入により、より効率的な医療を行い、職員の働き方改革に繋げたいところであったが、本年度は導入初年のためかえって職員の負担は大きくなってしまった。今後は、本システムの活用によってより効率的な運営を行うとともに、経営分析などにも活用したい。

2月からの新型コロナウイルスの拡大にともない、病床の稼働を80%程度に抑え、院内感染の防止と神奈川県が医療崩壊を防ぐために作成した神奈川モデルへの協力体制を取った。特に、院内感染の防止のためICUを中心とした疑い患者の管理体制を整え、職員の感染防止対策のための講習を行った。

通年として自宅復帰率、紹介件数、逆紹介件数などは目標を達成することができ、患者満足度でも入院、外来とも目標を上回っており、患者さんへ提供する医療の質という意味では満足いく結果であった。

福祉局全体の施設入所利用率は、一部施設を除いて安定して90%台を推移していた。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2月から短期入所、通所利用を制限したことにより3月に利用率が低下した。

家庭復帰率は、七沢学園児童については、家庭復帰が困難な利用者が障害者支援施設等に移行した結果、施設入所による退所が一定数生じ、目標値の達成ができなかった。七沢学園成人については、生活訓練事業において地域移行を着実に支援することができ、家庭復帰率の目標を達成することができた。七沢自立支援ホームについては、家庭復帰率の目標を達成でき、重度者の受入を積極的に行い自立した生活につなげるという施設の役割を果たすことができた。

利用者満足度は、各福祉施設とも概ね良い結果となり、利用者サービスについては概ね満足できるものとなった。

今後も、これまで培ってきた専門技術やノウハウを最大限に活用し、県立施設としての機能を発揮し、経営計画の着実な推進に取り組むとともに、利用率の改善や人員配置・業務の効率化を進め、収支健全化と県民サービスの維持向上に取り組む。

5 取組実績等についての総括（所管課）

令和元年度は再整備工事の完了や電子カルテシステムの導入など、運営面におけるハード・ソフト両面での大きな改善が図られた一方で、令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の蔓延といった外部的な要因により、患者・利用者が減少している。このような状況ではあるが、「神奈川モデル」の重点医療機関協力病院として県施策と連携を図っている。

今後も、これまで培ってきた専門技術やノウハウを最大限に活用し、県立施設としての機能を発揮し、経営計画の着実な推進に取り組むとともに、利用率の改善や人員配置・業務の効率化を進め、収支健全化と県民サービスの維持向上に努めていきたい。

6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
B	経営改善目標の達成に向けて、より一層の取組が必要である。利用率の向上を図っていただきたい。